

# おおぞら

## 第21号

・発行  
安来地区保護司会  
・事務局  
やすぎ更生保護サポートセンター  
広瀬町広瀬 802  
TEL(0854)26-4181  
題字 佐々木 實



第8回 尼子一族全国大集会武者行列(9月23日)

本年4月から島根県に赴任し、皆様と共に島根県の更生保護のために微力を尽くしております。山陰地方への赴任は初めてですが、安来市については、安来節に歌われる明るさと神代の昔から語り継がれる由緒正しい土地柄のイメージを持ち、更に、土地の安寧を祈るスサノオノミコトの思いが安来の名称の由来とうかがいました。さて、今年に入り、震災や風水害が各地を襲い、多くの尊い生命が失われました。島根県でも震災や豪雨被害を受けた地域がありました。痛ましい災害が起きる度に、私達はどのような備えをしておけば良かったのかと悔い、想定外の出来事が起きて初めて、改めて私達がすべきであった取組に思いを致します。しかし、失われた生命は残念ながら戻りません。話は変わり、私達を取り巻く社会は高齢化の波に襲われています。そして、刑務



松江保護観察所 所長  
加藤 雅之



所における受刑者の高齢化は、地域社会の高齢化の度合いを大きく上回ると言われます。更に、5年以内には再犯を繰り返した高齢者を調査したところ、その内の4割は出所後わずか半年以内に再犯に及び、再び刑務所に入所してしまいました。つまり、社会の中に居場所がないが故に、彼らが再犯を繰り返す度、相乗的に、刑務所内に高齢受刑者があふれ、更に地域社会での受け皿が大きく不足する悪循環が加速することになります。そのような現象を人ごとと考えるか、それともいざれ自分達も若い、病み、過ちを犯すこともあり得る存在であることを前提に、地域の中で議論を深め、制度設計にまでつなげられるか。そんなことの積み重ねが、犯罪に強い社会を実現するための力になるのではないかと思えます。安全で安心な安来。太古の神に祝福を受けた安来から、私達の手で実現する安全・安心な社会を呼びかけませんか。地域に応じた再犯防止策を推進する取組が全国各地で進められている今、私達にできる取組によって、犯罪により生み出される痛ましい被害者を一人でも少なくすること。そんな社会の実現に向け、皆様の御理解・御支援をお願いします。

# 第68回 社明大会



去る7月6日(金)、『第68回「社会を明るくする運動」平成30年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会』を安来市総合文化ホールアルテピアにて開催しました。この大会は毎年7月が「社会を明るくする運動」強調月間と位置づけられることなどを踏まえて、犯罪や非行のないまちづくりを推進するために安来市推進委員会を組織して毎年この時期に開催しています。

当日は集中豪雨による悪天候にもかかわらず、約1800人の参加があり、秋間安来地区保護司会長の挨拶に続き、内閣総理大臣のメッセージや県知事・県警本部長・県教育長連名発信の青少年非行・被害防止メッセージを受信した安来市長(大会実施委員長)が挨拶し、その後来賓の法務省松江保護観察所長から祝辞を頂戴しました。

さらに、前年の「社会を明るくする運動」作文コンテストにおける受賞作品2点

のうち、代表して林愛結さん(南小学校卒業生)が、朗読披露しました。また、安来警察署生活安全課角脇新一課長を講師に迎えて、「ネットトラブルから子どもを守るために」と題した基調講演を実施し、情報が氾濫しているネット社会において、個人情報を守るのは世代を問わず、自分自身である点などを紹介しながら、地域社会における課題について意識の共有を図り、最後に大会宣言を採択して閉会しました。

おわりになりましたが、大会開催に際して安来地区保護司会の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

(大会実施委員会事務局)



## 中国地方保護司 代表者協議会 会議に参加して

安来地区保護司会

柏 真知子

10月9・10日に松江市のエクセルホテル東急において中国五県から80名の保護司が参加し開催されました。協議会は4つの分科会に分かれ、1日目は各分科会毎に研究協議が行われ、2日目に発表と全体協議が行われました。

私は第三分科会の「薬物事犯対象者に対する刑の一部の執行猶予制度による処遇」が研究協議でした。

数人の事犯者を担当された先輩保護司の方々には活発に事例を発表、意見交換をされ、担当を持ってない者、持っていないもの浅い者は、ただ聞き入るだけでしたが、地域の医療機関・精神保健福祉センター等、連携が必要とされる機関が少なく早急に対処される事案だと感じました。助言者の長谷鳥取保護観察所長の『再犯をするまでの期間が長くなってしまう事で良い。保護司の肩の力を抜いて下さい。』との言葉。まとめて中国地方更生保護委員会稲葉委員長より『薬物は一生切れない、だから一生断薬』。

お二人のこの言葉が今回私の心に残った、そして安堵感を覚える言葉でした。

# 社会を明るくする運動の作文コンテスト

第68回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校4校7作品、中学校3校12作品の応募がありました。審査の結果、小学校の部で十神小学校6年の鶴見栄介さんが、中学校の部で伯太中学校3年の布野遥香さんが安来地区保護司会会長賞に選ばれました。おめでとございます。

## 小学生の部優秀作品

社会を明るくする運動

安来地区保護司会会長賞

## 明るい気持ちで 過ごせる社会



安来市立  
十神小学校6年  
鶴見 栄介

ぼくは、みんなが明るい気持ちで過ごせる社会にするためには、あいさつと笑顔と思いやりが必要だと思っています。

朝

「おはようございます。」  
と声をかけられると、とてもいい

気持ちになります。ぼくの友達で、いつも、

「おはよう。」

と元気なあいさつをしてくれる人がいます。ぼくは、その友達のあいさつを聞くと、朝眠たかったり、イライラしていたりするときでもとても元気になれ、ぼくも元気よく

「おはよう。」

と返します。

人を元気な気持ちにさせてくれるあいさつだけど、こんなこともあります。家の近くを歩いているとき、知らない人に

「こんにちは。」

とあいさつをしたけれど、無視されました。そんなとき、とても悲しい気持ちになり、もうあいさつ

をするのをやめようかなという気持ちになることもあります。

でも、ここであいさつをやめてしまったら、良い気持ちになることもなくなるので、ぼくはがんばってあいさつを続けようと思います。

そのあいさつが笑顔なら、もっと人はいい気持ちになれると思います。どんなときでも、笑顔が加われば、もっともっとすてきなあいさつになります。ぼくも笑顔であいさつができるようになりたいと思います。

それから、ちょっとした思いやりの気持ちもみんなを良い気持ちにさせてくれると思います。ぼくは、以前、電車でおばあさんの家に行こうとしていたとき、混んでいた電車の中で立っていたら、中学生くらいのお兄さんがぼくに席をゆずってくれました。ぼくはとてもうれしい気持ちになりました。

ぼくは、このお兄さんの親切がとてもうれしく、同じような場面になったら今度はぼくが席をゆずりたいと思いました。実際にそんな

場面になってできるかどうかかわからないけれど、がんばってそうなりたいと思います。みんな、ぼくのようにうれしく感じるのではないかと思うからです。

あいさつや笑顔、ちょっとした親切でみんなが気持ちよく過ごせる世の中になるとぼくは思います。これは、難しいと感じる人もいるかもしれないけれど、やろうと思えば誰でもできることで、そんなに難しいことではないと思います。誰もがこれを実せんすれば、どんなにすてきな世の中になっていくでしょう。

ぼくは、これからも、あいさつを返してもらえなくてもくじけないうで、「笑顔であいさつ」「ちょっとした思いやり」を忘れずに、取り組んでいきたいと思っています。



中学生の部優秀作品

社会を明るくする運動  
安来地区保護司会会長賞

思いを受け  
継ぎながら



安来市立  
伯太中学校3年  
布野 遥香

「ずっとこんな風に美味しいのだから。」  
祖父母の家に行くと、いつも美味しいご飯を食べさせてくれる。私は、祖父母が丹精込めて作った野菜やお米で作られたご飯だからだと思う。  
今、全国的に農業に携わる農業従事者が減って来ている。この問題は島根県、ここ安来市でも深刻になってきている。なぜ農業従事者は減って来ているのだろうか。  
私は小学校5年生の時、米作り体験をした。田植えは地域の農家の方々に教えて貰いながら、苗を手作業で一株一株植えた。田んぼのぬかるみに足をとられながら、等間隔に苗を植えていく作業は自分が思っていたよりも、はるかに重労働だった。今は田植機やコンバイン等便利な機械があるが、機械化される前はかなりの労力がいったのだと、

改めて実感した。このような農作業を育てるには、かなりの労力がかかることが、農業従事者が減少する原因の一つだと思ふ。  
そして、農業従事者の減少は、担い手の高齢化、後継者問題へつながる。調べてみると、農業従事者の約4分の3以上が65歳以上ということがわかった。こうした高齢化の問題を解消するのが後継者だが、現在ではかなり減少してきている。この理由として、まず労働環境の厳しさがあると思う。また、自然の影響を受けやすい事。外国からの輸入で、価格が下がってしまう事。そして私がもう一つ思うのは、日本人の米離れである。  
私の祖父母は田んぼを持っていて、お米を作っている。私は今年の春もお米の種まきの手伝いで、苗箱を運んだり洗ったりした。苗箱は土を入れると重く、水を含むとさらに重い為、運ぶだけでもとても大変だった。他にも毎日の水の管理等、米を作るには大変な作業がいくつもある事が分かった。  
ある日「なぜ農業は大変なのに、ずっと続けて来たの？」と祖父母にこう聞いてみた。すると、「自分や家族が食べるお米を自分の手で心を込めて作りたい。」という答えが返ってきた。答えからは、祖父母の米作りに対する真剣さや、食へのこだわりが伝わって来た。加えて、「農業は大変な事だけれど、よくことも沢山ある。」と言った。例えば「自分

「自分が作ったものを美味しいと言って食べてもらえる」等。この様な事を聞くと、農業はとてもしゃがみや、喜びのある仕事だと思ふ。だからこそ、農家の方々はずっと続けて来られたのだと思ふ。  
近年、機械やAI等が急速に進歩してきている。それによって、農業にかかる労力が軽減されてきている。例えば、田植機やコンバインなど機械の発達。近年ではドローン等を活用する事によって、田んぼ全体を管理することが出来るようになり、最新の技術により経験の無い人でも、美味しいお米を作れる様になってきているという事。  
また、米に付加価値を付けて栄養価の高い米としてブランド化したり、米を粉にしてパスタにしたりする等、第六次産業も盛んになってきている。  
こうした、機械やAIの発展から考えると、農業は関わっている人達の発想や工夫によって、沢山の可能性を秘めている。これからどんどん伸びていく産業であると思えるようになってきた。  
今回、祖父母の農業への思いを知ることができた。そして、私はこの思いを受け継いでいきたいと思うようになった。農業の最大の問題は、やはり後継者。私はその後継者になって、これからの農業を支えていきたい。そして、様々な工夫をしながら農業を発展させていきたい。そして、祖父母をはじめとした、農業に携わっている人達の思いを、しっかりと受け継いでいきたい。



この日のために練習をしてきた広瀬中学校の生徒さん達。天候にも恵まれ武者行列鉄砲隊、最高でした！

更女だより

現状と今後の課題

安来地区更生保護女性会

会長 田口 君枝

現在会員67名で活動しております。

今年度より当年度の事業計画案、予算案を明示することで役員、会員の年度目標を明確にすることができました。新人研修も早めの連絡により積極的参加につなげました。

6月中旬総会、研修会を行い32名が参加しました。今回、「わかたけ学園」は5年ぶりの訪問になりました。更生保護施設で働いておられる職員は一般的



に言えば、地味で世間からは評価されにくい職場ですが、真摯に向き合っておられる姿に感銘を受けました。

7月6日に第68回社会を明るくする運動には更女より15名が参加しました。

役員の中には保護司4名、民生委員3名がいる中で、それぞれの具体的な活動の知恵を出してもらい、協働できることから始めたいものです。

10月末、松江保護観察所企画調整課長の上谷淳子氏の講演と意見交換をしました。

当面の課題は、各事業をマンネリ化する事なく、役員会では報告連絡、相談を密にし、全員に発言してもらい少しずつでも前向きな活動ができればと願っています。

会員研修

広瀬地区更生保護女性会

会長 小林みず江

私達は更生保護施設「しらふじ」に研修に出かけました。理事長の吉長様が、広瀬方面と関わりがあるという事も初めて知りました。気持ち良く迎えて頂き、説明、案内をして頂きました。刑を終えて出て来られた人達の第二の出発点として、その方々の将来を心から願っておられる事に感動しました。再出発に必要な物は色々あるけれども、まずは衣類が不足しているという事でした。「しらふじ」という名称には、ここにいた少年を思う母親の気持ちが込められている事も知りました。「しらふじ」を去って行った人達が二度と帰って来ることがない様に願うばかりです。



楽しい活動を

伯太地区更生保護女性会

会長 渡邊慶子

今年も愛の募金を終えました。伯太は会員が自治会単位が大半なので全戸から協力して頂いています。県連盟・「しらふじ」そして町内小中学校・認定子ども園に図書費助成として又障害者施設へも贈呈しています。合併後助成も少なくなりました。私達の募金をとても喜んで頂いています。愛の募金がメインですが会員は2年に一度視察研修をしています。昨年は米子市の「喜多原学園」へ行きました。他には子供達の万引きをしない心を育てるものや、バランスの良い食事の大切さについての紙芝居を赤屋の学童と井尻の放課後クラブでしました。登壇者一人ずつ役割を決めて劇場型で役になりました。一生懸命頑張りました。それが子供達に受けて熱心にみてくれ良かったと言ってくれました。まだ支部内でしていない所もあるので皆で続けていきたいと願っています。

退任にあたって

あと始末あれこれ

山崎 武道

曾野綾子著「夫のあと始末」を読んだ。同じく作家でもある夫、三浦朱門の10年にも及ぶ看護記録というより、作家の眼を通して「一種の愛情物語」とも言える。

さて、私も76才。6月末12年間の「保護司」が終わった。ヤレヤレである。60才での教職定年時に比べて、「別の感情」が生じている。それは、この第2定年を越えようと、いよいよ曾野綾子氏のいう「あと始末される年代」に入ることになる。女はまだいい。大なり小なり、男たちは、余儀なく意識することになるだろう。

実は私達夫婦は同い年である。きつと男である私の方が始末されるに決まっている。身体の衰え、病気、世間との不遇は、私の父母の例からも覚悟の上である。でも、シモの世話、痴呆云々は想像したくない。

先日、私が初めて担当したS氏と酒席を共にした。当時、私の友人である社長にS氏を雇ってもらい、彼の昇給をお願いしたこともあった。耳元で「給料が上がりました」「工場長になりました」ときた。だから、この頃になって、不承不承の保護司時代が懐かしい、恋しい。(これはどうしたことか)

あと始末あれこれを想う今日この頃である。

# 第18回「どじよっこカップ大会」

この大会は平成13年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年も安来市周辺のスポーツ少年団がたくさん集まり熱戦が展開されました。

## ●バレーボール大会

10月8日に情報科学高校体育館を主会場にして、遠くは岡山など20チームが参加して熱戦が繰り広げられました。その結果、優勝は西伯JVC、準優勝は就将少女バレースポーツ少年団、3位は安来ホワイトウイングスと横井スポーツ少年団でした。



## ●野球大会

10月20・21日にあらえっさ球場を主会場に、20チームが参加して実施されました。その結果、優勝は十神キッズと城西レッドスターズ、準優勝は福米西スポーツ少年団と岸本八郷スポーツ少年団野球部で田中・小池両保護司会副会長からカップとメダルが授与されました。



## ●剣道大会

10月21日に広瀬総合体育館で開催されました。市内外から200人を超す参加者がありました。競技の結果、団体優勝は猶興館道場A(松江)、準優勝は塩冶スポーツ少年団A、3位は横田剣道スポーツ少年団Aと法吉スポーツ少年団Aでした。



## 顕彰式典で受彰

11月15日に松江市総合福祉センターで平成30年度島根県更生保護顕彰式典が開催され次の方々を受彰されました。おめでとうございます。(敬称略)

### ●中国地区

更生保護委員会委員長表彰

矢田 博美

佐瀬 宏洋

### ●中国地方保護司連盟会長表彰

倉本 洋子

### ●松江保護観察所長表彰

柏 真知子

### ●島根県保護司会連合会会長表彰

永島 均

## 保護司の異動

### 退任保護司

平成29年11月30日

藤原 常義(安来)

平成30年5月31日

福田 瑞枝(安来)

山崎 武道(伯太)

### 新任保護司

平成29年12月1日付

藤井 裕子(安来)

平成30年6月1日

勝部 幸治(安来)

宮廻 郁丸(伯太)

山崎 幸子(広瀬)

## 部会名簿

(平成30年11月1日現在)

### 総務部会

秋間 近夫 田中壽美夫

小池 清水 村社 征利

楢野 光範 原 玉子

少林 浩道 小村 修司

### 研修部会

岩崎 哲久 田中 篤美

安達 紀雄 仙田 芳弘

勝部 幸治 永島 均

葉田 茂美 山崎 幸子

### 犯罪予防部会

上田 宏充 藤井 裕子

細田美佐子 今井 昭紀

柏 真知子 安部 良江

岩崎美枝子 山崎 光恵

藤島 義信

### 協力組織部会

矢田 博美 遠藤 史則

安達 紘二 佐瀬 宏洋

宮廻 郁丸 岩田 京子

倉本 洋子 池上 幸秀